

■■メールマガジン「静岡県防災」第67号■■

～ 被災地支援における信頼性の重要性～
―牧之原市支援の取り組みから―

ー 本号では、危機管理部が委嘱した学生防災ジャーナリストからの内容になりますー

学生防災ジャーナリスト 牧之原支援について

静岡大学学生防災ネットワーク 片山莉緒

「被災地支援における信頼性の重要性 ―牧之原市支援の取り組みから―」

台風第15号の牧之原市での被害を受け、私が所属をする静岡大学学生防災ネットワークでは、災害ボランティアや募金活動を行ってきました。防災団体として、「自分たちにできることはなにか」を考え、議論を重ねた結果の取り組みです。

私は9月28日の牧之原復興支援募金に参加をしました。被災についてメディアで取り上げられることが減る中、現地ではまだまだ支援が必要な状況であることを多くの方に知ってもらうことも1つの目的でした。

実際に街頭に立って募金活動を行い強く感じたのは、「信頼」の重要性です。足を止め募金をしてくださる方の中には、寄付先や具体的な寄付金の使途を尋ねてくる方もいました。

皆様の善意を預かり、寄付として送り届ける重要な役割を果たすには、確かな信頼性が不可欠であると感じました。実際に現地で活動したメンバーも同様に、信頼の重要性を感じたといいます。

被災された方から不安につけこむ詐欺の話が身近で存在したことを伺ったそうです。被害を受けた方が不安や恐怖に襲われる中、1日でも早く日常を取り戻したいという気持ちから救いの手を疑いなく受けとってしまうことは自然なことです。

だからこそ支援を行う私たちは、自分たちの団体についてしっかりと伝え、信頼を得ていくことを怠ってはならないと感じました。

また、家屋の損壊により多額の資金を必要とする方が多く、現在も様々な地域で募金活動や寄付の支援が行われています。しかし、住家被害認定調査の結果により満足のいく支援が受けられないというケースも存在します。

集められた寄付が適切に被災者のもとへ届き、被災者の気持ちに寄り添ったより柔軟な支援がされる必要があると感じました。

復旧にはまだまだ多くの時間が必要とされており、今後は経済的な支援に加え心理的なサポートも重要な課題となります。私たち静岡大学学生防災ネットワークは、地域の皆様からの信頼を考えながら、

牧之原市への支援を今後も続けていきたいと思えます。